

マルチディスプレイコントローラー QuadHead2Go

クイックスタートガイド v1.1



このたびは Matrox QuadHead2Go をお買い上げ下さいまして、誠にありがとうございます。
このクイックスタートガイドでは、機器接続方法および専用ソフトウェアを使用した基礎的な設定方法を簡単にご紹介します。

本機の使用を開始する前に、必ず最新ファームウェアへのアップデートを行って下さい。同梱 DVD-ROM または以下の弊社 Web 内リンクより Matrox 社の Web からダウンロードが可能です。アップデートの手順は本書の P.8 に記載が
ございます。 <https://jmgs.jp/support/downloads/matrox.html>



同梱品の確認

製品本体 / 電源アダプター / 電源ケーブル / 製品保証書 / 同梱品リスト / DVD-ROM (※カードタイプの製品に電源アダプター・電源ケーブルは付属しません。)

機器の接続方法

1. (カードタイプの場合) PCIe® x16 拡張スロットにカードを挿入します。
2. ソース機器と QuadHead2Go の入力端子をケーブルで接続します。
3. ディスプレイと QuadHead2Go の出力端子をケーブルで接続します。
4. LAN ケーブルで PC と QuadHead2Go の RJ45 端子を接続します。
5. (スタンドアローンの場合) QuadHead2Go に電源アダプター・電源ケーブルを接続して電源供給を開始します。

本体ボタン



筐体上の3つのボタンを押下することでオンスクリーンメニューが表示されます。ボタン押下のたびにカーソルが移動し、選択項目の上で数秒待つと適用されます。

① ソース選択ボタン：表示するソースを選択します。(入力映像 or 筐体内蔵の画像)

② レイアウト選択ボタン：レイアウトを選択します。

デフォルトではプリセットのレイアウトが搭載されており、初回はモニターが横向きに2x2の田の字型で配置されたレイアウトで表示されます。ボタンを押下するたびに2x2(横)→1x2(横)→1x3(横)→1x4(横)→2x1(横)→3x1(横)→4x1(横)→2x2(縦)→1x2(縦)→1x3(縦)→1x4(縦)→2x1(縦)→3x1(縦)→4x1(縦)→Clone(複製)の順でレイアウトが切り替わります。このレイアウトのラインナップは後述する無償専用ソフトウェアから変更が可能です。

③ デバイス情報：筐体の現在のステータス情報を表示します。

※本体初期化：工場出荷状態に戻す場合は①と③を同時に5秒長押しして下さい。

※操作有効化：ボタン操作が無効になった場合は①と②を同時に20秒長押しして下さい。

本体ボタンによる設定

■ 2x2 田の字型の 4 面レイアウトの場合



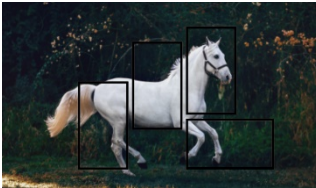
デフォルト状態が 2x2 レイアウト設定となっているため、このレイアウトはディスプレイとソース機器を繋ぎ QuadHead2Go を起動するのみで実現可能です。

■ その他プリセットに含まれるレイアウトの場合



2x2, 1x2, 1x3, 1x4, 2x1, 3x1, 4x1 (※それぞれディスプレイ方向が縦・横の両パターン有り) のレイアウトであればプリセットに含まれています。筐体ボタン 2 を押下して選択します。

無償専用ソフトウェア Matrox PowerWall による設定



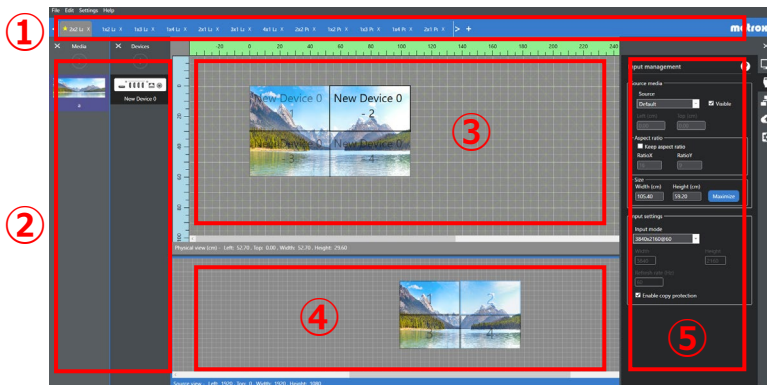
プリセット以外のレイアウトの作成および、その他の詳細設定を行うには無償の専用ソフトウェア「**Matrox PowerWall**」の利用が必要です。ソフトウェアをインストールした Windows PC にて設定を行い、ネットワーク経由で QuadHead2Go 本体に設定をアップロードします。(※本体ボタンを用いて詳細な設定を行うことはできません)

Matrox PowerWall は同梱の DVD-ROM または本書 P.1 に記載の Matrox 社のホームページにアクセスしてダウンロードして下さい。

※本書では PowerWall 2.00.00.0024 以降のバージョンについて解説しています。

※本ソフトウェアのサポート OS は Windows10 (64bit)です。

※初期設定時は DHCP サーバーが存在し、IP 自動取得が可能なネットワーク環境を準備し、同一ネットワーク上に PC と QuadHead2Go を接続して下さい。



【ソフトウェア構成】

- ① レイアウトタブ：作成したレイアウトのタブが表示されるエリア
- ② Media 欄 / Device 欄：仮想メディアと仮想デバイスを追加・管理するエリア
- ③ Physical view：実際のビデオウォールが表示される壁面イメージを表す設定画面
- ④ Source view：入力ソースをピクセルで表す設定画面
- ⑤ 各種設定画面：出力、入力、ネットワーク、アップロード、デバイス設定画面

■QuadHead2Go 1 台で使用する場合

1. PowerWall を起動し、左上のメニューより File > New design を選択し、任意のレイアウト名を入れ、「Single device design」にチェックを入れ、OK で進みます。
2. 「Add background media」の画面がポップアップします。任意の入力ソース名を入れ、設定時に使用するイメージ画像をリストから選択し、OK で進みます。
3. 「Add device」の画面がポップアップします。最低 1 つ以上、デフォルトのレイアウトを選択し、OK で進みます。
4. デフォルトレイアウトが表示された状態の設定画面が生成されます。画面上部の「Physical view」は実際のビデオウォールが表示される壁面イメージの設定画面です。画面下部の「Source view」は入力ソースをピクセルで表した設定画面です。いずれもマウスのスクロールで画面の拡大・縮小が可能です。
ソフトウェア上部には、先ほど選択したレイアウトのタブが表示されます。設定を QuadHead2Go 本体にアップロードした後、先述の筐体ボタン②の押下時にはこのタブの順番でレイアウトが表示されます。
レイアウトタブの 1 番右側にある「+」をクリックすると新規レイアウトが追加できます。任意のタブの上で右クリックし、「Rename」で名称変更が可能です。また「Set as active layout」を選択するとタブ名の先頭に★が付き、このレイアウトがアップロード時に画面表示されます。
5. 新規レイアウト追加後、右側の各種設定画面より上から 2 つ目の「Input management」に入り、入力ソースの設定を行います。下部の「Input settings」のリストから実際に入力しているソースと同じ解像度を選択します。ソース映像のアスペクト比を崩したくない場合は、「Keep aspect ratio」にチェックを入れます。Physical View 画面からソースサイズを動かす際にオリジナル

の画角が保たれるようになります。

6. 各種設定画面の 1 番上の「Output settings」から各出力の設定を行います。
メニュー内上部から設定したい出力のタブを選択し、出力解像度(Display Mode)、回転・反転(Rotation)、切り取り位置(Source Position)を設定します。切り取り位置は Physical view 内の仮想ディスプレイをドラッグで動かすことでも設定可能です。また Source view 内の仮想ディスプレイをドラッグで動かすことで表示ソースの拡大・縮小をすることもできます。



7. 各種設定画面の上から 3 番目の「Network setting」からネットワーク環境の設定を行います。デフォルトでは IP と DNS はそれぞれ自動取得となっています。任意の固定アドレスを設定する場合は「Use～」にチェックを入れて任意のアドレス指定を行い、以下の項目 8 の要領でアップロードを行って下さい。
8. 各種設定画面の上から 4 番目の「Device data transfer」から設定データのアップロードを行います。正しくネットワーク接続できている場合、Physical devices 欄に接続された QuadHead2Go のシリアル番号が表示されます。筐体を選択し、「Upload」ボタンを押すとレイアウトが筐体内に上書保存されます。

■複数の QuadHead2Go を使用する場合

1. PowerWall を起動し、左上のメニューより File > New design を選択し、任意のレイアウト名を入れ、「Multi device design」にチェックを入れます。また、最終的に構築するビデオウォール全体の実寸サイズも入力し、OK で進みます。
2. 空のレイアウト設定画面が生成されます。左側の「Media」欄の「+」を押し、使用するソースの数だけ仮想メディアを追加します。続けて隣の「Device」欄の「+」を押し、使用する QuadHead2Go の数だけ仮想デバイスを追加します。
例えば 1 種類の映像を、複数の QuadHead2Go で切り出す場合は、Media1 つに対して複数の Device を追加します。2 種類の映像をそれぞれ 1 台の QuadHead2Go で切り出す場合は、Media2 つに対してそれぞれ 1 台ずつ Device を追加します。



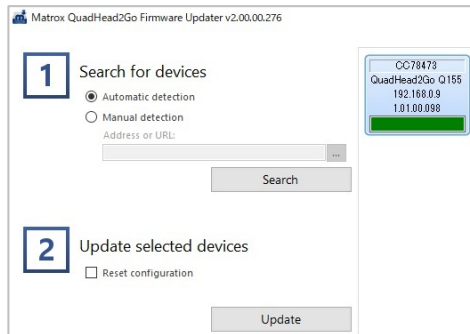
3. レイアウトの編集は、「Device」欄から各デバイスをクリックまたは Physical View から編集したいデバイスの仮想ディスプレイをクリックしてから始めます。その他手順は、P.5 の「QuadHead2Go 1 台で使用する場合」5 頁以降と同様です。

※PowerWall で作成したデザインは自動的に保存されます。File > Open design から現在ソフトウェア上に存在するデザインが確認できます。

※不要になったデザインは Edit > Delete design から削除することが可能です。

ファームウェアのアップデート手順

1. 同梱 DVD-ROM または Matrox 社ホームページより最新 Firmware を入手します。
2. DHCP サーバーが存在し、IP 自動取得が可能なネットワーク環境を準備し、同一ネットワーク上に PC と QuadHead2Go を接続します。
3. 「UpdaterUI.exe」をダブルクリックして実行します。



4. 「Automatic detection」にチェックを入れ「Search」で実行し、ネットワーク上のデバイスを自動検出します。検出できない場合は「Manual detection」にチェックを入れ、検出したいデバイスに割り当てられている IPv4、IPv6、または DNS アドレスを指定して手動で検出します。
5. アップデートしたいデバイスを選択します。ファームウェアのバージョンが古いデバイスが自動的に選択されます。デバイスのソート順を変更するには、デバイスリストボックスを右クリックし、「Sort by」を選択し、使用するソート順を選択します。すべての項目の選択を解除するには、デバイスリストボックスを右クリックし、「Unselect all devices」を選択します。
6. デバイスリストへの追加が完了したら、「Update」をクリックしてアップデートを開始します。デバイスのアップデートには最大 10 分程度かかることがあります。

トラブルシューティング (スタンドアロンタイプ)

QuadHead2Go 筐体の LED の点灯パターンはそれぞれ以下の状態を示します。

LED 状態	左側の LED	右側の LED
LED 点灯なし	電源が入っていない	-
緑色 点灯	電源が入っている	エラーなく正常稼働中
緑色 遅い点滅	再起動中	入力信号または出力信号が、 実際の信号・構成と不一致
緑色 速い点滅	ソフトウェアメニューの筐体 探索機能が作動中	-
橙色 点灯	ファームウェア更新中	入力信号無し
橙色 遅い点滅	ネットワーク検出無し	ファームウェア更新中
赤色 点灯	致命的なエラーを検出。電源の再起動を試した後も、赤色点灯 している場合、弊社 Web からサポート窓口へご連絡下さい。	

※HDCP 保護を含むソースを入力する際に、適用したレイアウトに必要な出力 CH のうち 1 つでも信号不通(ケーブルの抜け、断線、ディスプレイ電源 OFF 等)が発生すると、全ての CH の出力が停止します。接続環境の見直しの上、ケーブルの挿し直しや機器の Off/On をお試しください。

本書記載以外のソフトウェアの機能については、ソフトウェアメニュー上部「Help」または以下の URL・QR コードより弊社作成マニュアル（近日公開予定）をご確認下さい。
<https://jimgs.jp/support/downloads/matrox.html>

※製品の仕様は予告なく変更する場合があります。

